

恭城県三江郷ミエン語 (チャウコンメン) 調査報告

田口善久

0. 本稿は、中国広西チワン族自治区恭城瑶族自治县三江郷において、筆者が2009年8月から9月にかけて行った三江郷石口村ミエン語の調査報告である。¹ この言語は、三江郷においてのみ確認されている変種で、ミャオ・ヤオ諸語のミエン語に属することは確かであるが、分類はまだ定説はないと考える。中国では、“交公勉”と表記され、広西チワン族自治区全州県東山瑶族郷において話されるミエン語の変種、ビャウミン“标敏”とともに、1つの方言をなすとされている。しかし、本稿では、この言語を独立した方言ないし、ミエン語支における独立した言語として位置づける可能性も視野に入れて、チャウコンメン (以下ではCKM) とよぶ。² これは、民族集団の自称である $\text{cau}^5 \text{kon}^1 \text{men}^2$ によるものである。³ 言語情報を提供していただいたのは、石口村の盆富雄氏である。盆氏は同村出身の男性で、農業を生業とするほか、宗教的行事を取り仕切る祭司を務めている。盆氏は大変忍耐強く、筆者にチャウコンメンを教えてくださいました。御礼申し上げたい。本調査は、1993年に筆者が中央民族大学の故盤承乾教授とともに行った調査の拡充として企画したものであった。⁴ しかし、コンサルタントの変更があり、年数も経っているので、新たに語彙から記述することにした。盤教授からいただいた御学恩に心から御礼を申し上げます。今回の現地調査においては、恭城瑶族自治县民族事務局が全面的に支援して下さった。特に、趙健球副局長、李廷武氏には特段のご配慮を賜った。お二人と領導班子の皆様に御礼申しあげたい。また、恭城県瑶族研究学会の莫紀徳先生には、現地の事情についていろいろと御教示を賜った。厚く御礼申し上げる。

1. 三江郷の地理的・言語的状況

恭城瑶族自治县は、北緯25度、東経110度付近に位置する県で、面積は2149.02 km²、全人口は26

¹ この言語については、先行研究として毛宗武 (2004) がある。毛宗武 (2004) と筆者は、音韻分析および語彙の記述において一部異なっている。音韻分析については後述する。言語の分布については、本稿が初めての報告となると思われる。

² 筆者は、2008年の第41回国際シナ・チベット語学会 (ICSTLL 41) において、この変種も含めたミエン語の下位分類を試みた。そこでは、ミエン語支の言語の中では最も初期に分岐した言語のうちの1つと考えている。

³ 新谷 (1992) にも同様の呼称があげられている (p.340)。ただし、新谷 (1992) では、 kon^1 は第2声調と記述されている。

⁴ 1993年の調査は三菱信託山室記念財団からの援助を受けて行われたものである。

万 6720 人である（瑶族人口は全体の 49.85%を占める）。⁵ 三江郷は県東部の山岳地帯に位置する郷で、人口は 12964 人（瑶族人口は 12622 人で郷人口全体の 97.36%を占める）である。三江郷へは、県からバスで 2 時間半ほどで到着する。三江郷は勢江の上流にある狭い平地に、解放後にできた街で、調査対象の言語が話されている石口村は三江の街から徒歩 15 分ほどにある（図 1 参照）。そこから北へ向かうと十八嶺“十八岭”という分水嶺があり、その北側は湖南省へ流入する黄江の流域となる。十八嶺の北側も川沿いの狭い平地が続き、そこにも瑶族が居住する。

三江郷に居住する瑶族が話す言語は、ミエン語と漢語である。ミエン語は確認した限りでは 3 つの変種が存在する。本稿の対象である CKM のほかに、黄江の流域の栗田村という集落を中心とするモヒムー（自称の [mo⁵⁵ ɕi³¹ muə³¹] から）とイウミエンがある。図 1 では、3 つの変種の分布の図示を試みた。⁶ イウミエンは湖南省から雲南省、東南アジアに広がる音韻的・語彙的にかなり均質な言語であるが、モヒムーは CKM と同様、ここにしか確認されていない、音韻的に特異な特徴をもった変種である。⁷ また、CKM にはミエン語の古い音韻的・語彙的特徴が保存されている。山岳によって外部から封鎖された社会環境が、ある一定期間続いていたことが想定される。これら 3 つの変種間では、全く意思の疎通はできず、漢語がリングフランカとして使用されている。いずれにせよ、このような狭い地域に 3 種のミエン語が同居しているのは大変珍しい。

図 1 に示した分布状況は、地元の有識者に聞き取り調査で調べたものである。自分で足を運んで語彙を聞いたのは、石口村以外では俸頭寨村“俸头寨”（CKM を話す）と小栗田村（モヒムーを話す）の 2 ヶ所だけである。これを見ると、栗田村を中心にモヒムーが分布し、その周りを CKM が囲っているように見える。ただし、モヒムーが話される村では、栗田、小栗田、牛尾寨の 3 つの村、CKM が話される村では、石口、毛塘、俸頭寨、新寨の 4 つの村以外はすべて小さな村で、話者は少ないとのことである（毛塘、新寨では漢語への言語交替により、話者は非常に少なくなっているとのことである）。イウミエンは郷の南部の 2 ヶ所に村があるとの情報をえたが、そのほかの地域にも散居している可能性がある。

石口村は、約 140 戸、人口 700 人ほどで、住人はすべて CKM を話す瑶族である。そして、そのほとんどは盆姓である。⁸ この姓は CKM では /buən²/ という語で表されるが、イウミエンを話す瑶

⁵ この節の人口情報は《恭城县志》(1992) による。人口は 1990 年の第 4 次人口普查によるものである。

⁶ この図は、恭城瑶族自治县地名委员会办公室（編）(1991)《恭城瑶族自治县地图》にもとづいて作成した。作成に当たっては、コンサルタントの盆富雄氏のほか、三江郷政府の幹部の方々、栗田の村委员会の幹部の方々に言語の分布状況を教えていただいた。御礼申し上げる。

⁷ 田口 (2005) はこの言語の音韻について考察を行っている。系統的にはイウミエンに近いが、音韻的に特異な変化を遂げていると考えられる。

⁸ これは、盆富雄氏による。また、莫紀徳 (2008) では、三江郷の各行政単位別の姓の統計資料を提示している。それによれば、三江村委会（石口村を含む）の全 338 戸のうち 190 戸が盆姓である (67)。

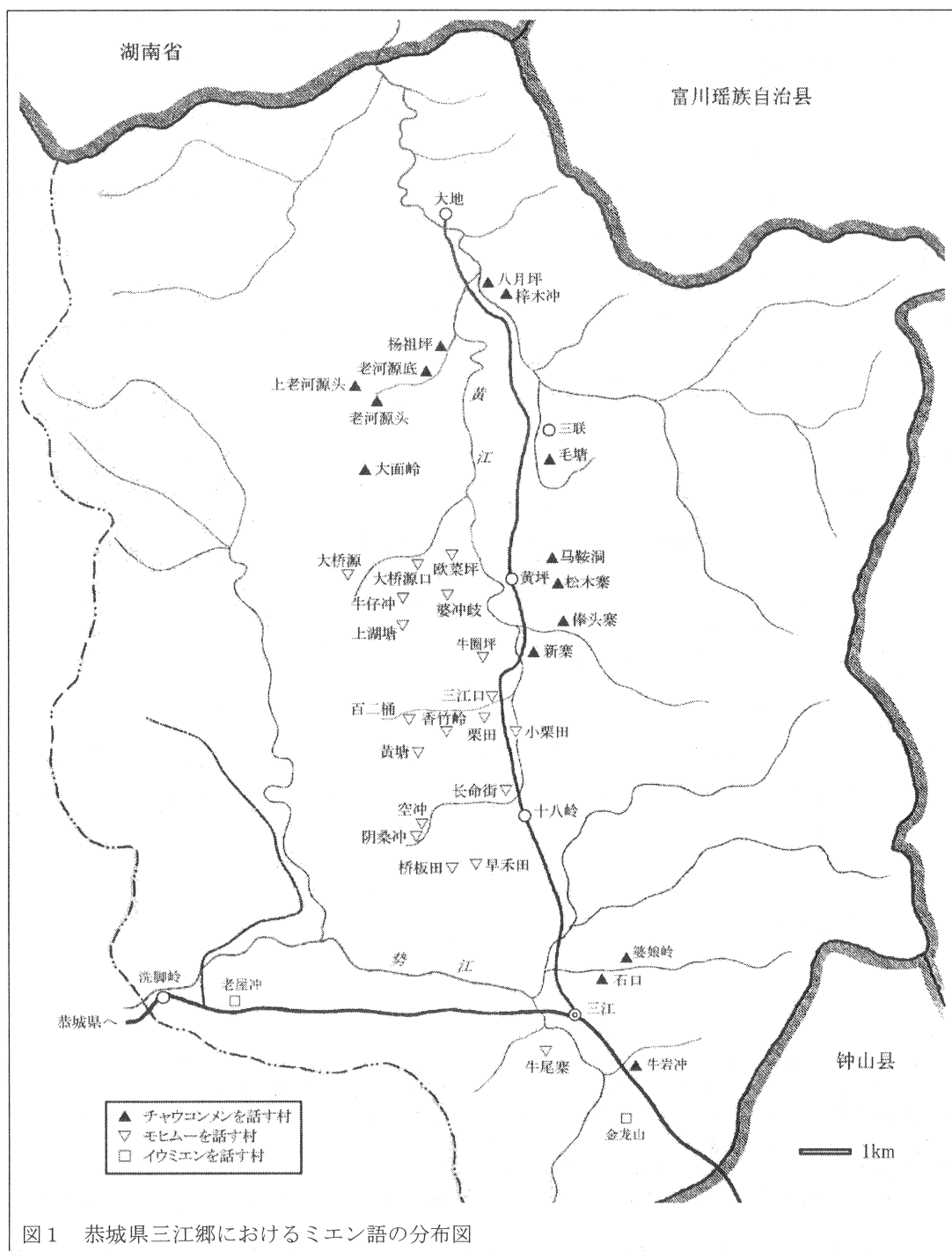


図1 恭城県三江郷におけるミエン語の分布図

族に多く見られる盤姓（イウミエンでは /pien²/）と同源語であるとみられる。コンサルタントのほか、数人の長老に聞いたところでは、彼ら CKM を話す瑶族は、モヒムーを話す瑶族と一緒に「千家峒」という瑶族の伝説上のユートピアから来たとのことである。⁹ まず、北部に位置する毛塘村ができ、その後石口村ができたという。¹⁰

三江郷で主として話されている漢語は、西南官話の一種の恭城話であるが、宝慶話という湖南省の漢語の変種も話されているとのことである（筆者は未確認である）。コンサルタントの盆さんを含めて、CKM の多くの話者は、恭城話とのバイリンガルのようなものである（石口村の多くの村民は、年齢・性別を問わず、普通話も上手に話したことを報告しておく）。恭城話は三江の街での意志疎通の主要な媒体である。

2. 音韻構造¹¹

2.1 音節構造

音節構造は以下のように記述できる。（ ）は随意的要素を表す。

$$[C_1(C_2)]_{\text{Onset}}[V(N)]_{\text{Rhyme}}$$

2.2 音節頭子音 (Onset)

音節頭子音 C_1 は表 2 の通りである。¹² 破裂音には、有声と無声、有気と無気の 2 つの音声特徴による 3 項対立がある。 C_2 は側面音 /-l-/ である。これらの組み合わせは、見つかっている範囲では、以下の通りである。

$$C_1-C_2 : p-l-, k-l-, kh-l-$$

⁹ 同様の話は、小栗田でも聞くことができた。千家峒は現在の湖南省の江永県北部にあったとされ、千家峒瑶族郷が成立している。江永県は三江郷のすぐ北に位置する。ただし、具体的な場所の同定に関しては多くの疑問がある。

¹⁰ これについても、莫紀徳 (2008) に史料の解説がある。

¹¹ 今回の調査で判明した限りであり、今後の調査では調整が必要になる可能性があることを付け加えておく。

¹² 毛宗武 (2004) は、すべての調音点に唇音化を立てている。音節表を作ってみると、軟口蓋破裂音と /-u-/ の渡り音だけは、その後の母音に制限がないので、本稿ではこれらを 1 つの子音と分析した。ただし、後に渡り音 /-u-/ あるいは主母音 /-u/ が続く場合には、唇音化軟口蓋音と軟口蓋音の対立はない。前者は唇音化軟口蓋音（例えば、/kwei/）、後者は軟口蓋音（例えば、/ku/）と分析する。

表 1. 音節頭子音

	破裂音 plosive			鼻音 nasal	摩擦音 fricative	接近音 approximant
唇 labial	p	ph [p ^h]	b	m	f	v [v]
歯茎 alveolar	t	th [t ^h]	d	n	s	l
歯茎 alveolar	ts	tsh [ts ^h]				
歯茎硬口蓋 alveolo-palatal	c [tɕ]	ch [tɕ ^h]		ɲ	ç	j
軟口蓋 velar	k	kh [k ^h]		ŋ		
唇音化軟口蓋 labialized velar	kw	khw [k ^w h]				
声門 laryngeal	ʔ				h	

唇接近音のセルに書かれている /v/ は唇歯接近音 [v] である。また、上記の音節構造の項で述べたように、これ以外に音節頭には子音連続 /pl, kl, kh/ がたつ。歴史的な観点からすると、この他に /phl/ があってもよいのであるが、今回の調査では見つかっていない。この種の子音連続は、他のミエン語では失われていることが多いもので、祖語の情報を保持していると考えられる。

2.3 韻 (Rhyme)

韻を母音と音節末音に分解して組み合わせを表にしたのが、表 2 である。母音は主母音あるいは渡り母音 /-i-/、/-u-/ と主母音の組み合わせからなる。母音が主母音だけからなる単母音の場合と、母音連続の場合とで、音節の長さに変化はない。音節末子音 Coda は鼻音のみであるが、/i, e, ε, a[v], o, ɔ, u/ の後では軟口蓋鼻音が、/a, ə, y, ie/ の後では歯茎鼻音が見られる（歯茎鼻音は鼻母音と揺れる）。ただし、/e, o/ は 単独で韻を構成しないと分析したが、/ei, ou/ を単独形とみなすことは可能である。¹³ なお、母音の /i/ は摩擦音に近い接近音で、[z] と書いてもよいもので、漢語の借用語に現れる。なお、この他に、否定詞、指示詞など少数の語に現れる成節鼻音 /ŋ/ がある。これは単独で音節を形成する形式と見られる。

¹³ 毛宗武 (2004) では、/e/ と /ei/ をたてているが、後者は唇音化子音の後にのみ現れるとしている (120)。また、/ou/ は /ou/ としていて、母音 /o/ は /oŋ/ にのみ現れる。本稿では、前者は顕著に狭いので /ou/ とした。

表 2. 韻

		音節末音				
渡り	主母音	-0	-i	-u	-n	-ŋ
-0-	i	i		iu		iŋ
	e		ei			eŋ
	ɛ	ɛ		ɛu		ɛŋ
	æ	æ				
	a	a	aɪ	au	an	aŋ
	œ	œ			œn	
	o			ou		oŋ
	ɔ	ɔ				ɔŋ
	u	u				uŋ
	ə	ə			ən	
	y	y			yn	
	i	i				
-i-	e	ie			ien	
	a	ia		iau		iaŋ
	o			iou		
	ɔ	io				ioŋ
-u-	e		uei			
	a				uan	
	ɔ	uɔ				
	ə	uə			uən	

2.4 声調 (Tone)

CKM には声調の音韻的単位である調類は、7 つある。そのうちの 6 つが祖語の 4 つの声調の発展であり、残りの 1 つは祖語の声調と直接にはつながらないものである。表 3 にあらわすように、ミエン語祖語の声調は *A, *B, *C, *D の 4 つの声調であり、これはミャオ・ヤオ祖語から受け継いだものである。これが、CKM では他のミエン語と同様、*A, *B, *C の各声調は音節頭子音の有声・無声を条件として 2 つに分岐したが、*D 声調は音節末子音を失って、他の声調に合流した。¹⁴ 合流の仕

¹⁴ 毛宗武 (2004) では、第 3 声調と第 7 声調 (*D 声調にさかのぼる声調) がたてられているが、

方は、音節頭子音の無声の場合には第1声調か第3声調、有声の場合には第2声調か第4声調である。祖語の声調にさかのぼれない声調は、本稿では第7声調とした。これは漢語の借用語の一部に見られるほか、親族名詞、人称詞に頻出する。これらの語は、祖語にさかのぼれる声調を持っているものが、語彙グループの標識としてこの声調をとるように変化したのではないかと推測される。

次に、調値について記述する。第1声調は高めに始まるがやや下がって平板を保つ。第2声調が最もピッチの高い声調で、高いところからさらに stiff voice を伴って上昇する。第3声調は開始部分に顕著な breathy voice が聞かれる。第6声調は全体にわたり breathy voice が聞かれる。音節末尾で少し上昇が聞かれることもある恒常的特徴ではない。第7声調はピッチは非常に低く、whispery creak というべき発声で発音される。

表3. CKM の声調

ミエン語祖語		*A		*B		*C		*D		
CKM	調類	1	2	3	4	5	6	(1/3)	(2/4)	7
	調値	433	45	13	42	44	22	-	-	21

声調交替現象は、音声的なものが観察される。それは、第3声調は他の声調の前で中平調 [33] で発音されるというものである。イウミエンに見られるような複合語形成に特有の声調交替は見られない。

3. 語彙的特徴

方言間の比較をすると、CKM にはいくつか他のミエン語では失われたミャオ・ヤオ同源語彙が保存されている。以下に、イウミエンとミャオ語とともに例示する。CKM の形はミャオ語と一致する守旧要素 (retention) である。¹⁵

これらには同じ調値 [35] が書かれている。第7声調では、音節末尾に声門閉鎖音が立つとされているが、筆者の調査ではそれは確認できなかった。筆者の調査では、毛宗武 (2004) の第3声調と第7声調をもつ語彙に見られる声調は、同一の声調とみられる。ただし、語頭子音が無声音で、韻が /e, æ, a, œ, ɔ/ など低い母音の音節における第3声調には stiff voice が聞かれる。これはかつての音節末子音の名残である可能性があるが、対立は見られないのでこれらの音節に付随する現象として扱っておく。一方、毛宗武 (2004) では、第8声調があり、低い調値 [22] が書かれている。筆者の調査では、毛宗武 (2004) の第8声調をもつ語彙に見られる声調は、第4声調と同じ声調であると見られる。なお、毛宗武 (2004) の声調の例として示されている“刀”「刀」は /tɕɔ22/ と書かれているが (121)、第4章第5節の方言語彙対応表では、/tɕɔ55/ と書かれている (523)。こちらの方が筆者の調査の結果 (第2声調) と一致する。

¹⁵ この表におけるミャオ語とイウミエンは王輔世、毛宗武 (1995) による。

表4 CKMの守旧的語彙

意義 （“漢語の対応語”）	CKM	イウミエン	ミャオ語 （川黔滇次方言）
私 “我” ¹⁶	ko ⁷	jiə ¹	ko ³
弟 “弟弟”	ki ³	jou ⁴	ku ³
肉 “肉”	kai ²	ɔ ³	Nqai ²
上方 “上边”	ɕu ¹ vei ³	kə ² ŋaai ⁶	ɕua ¹
齒 “牙齿” ¹⁷	mien ³	ɲa ²	ŋa ³

【参考文献】

恭城瑶族自治县地方編纂委員会（編）（1992）《恭城县志》 广西人民出版社

毛宗武（2004）《瑶族勉语方言研究》 民族出版社

莫紀徳（2008）《瑶族“千家峒”刍论》 《恭城瑶学研究》4: 49-69.

新谷忠彦（1992）「ミャオ・ヤオ諸語」『言語学大辞典』（第4巻）388-339.

田口善久（2005）《三江史門勉語の音韻特点》《民族語文》2, 7-14, 2005.

王輔世、毛宗武（1995）《苗瑶語古音構擬》 中国社会科学出版社

¹⁶ CKMの第7声調は先に述べた、人称詞及び親族名称における第7声調の使用によるものと考えられる。

¹⁷ ミャオ語における調音点は、口蓋化によるものと思われる。他のミャオ語では、/m̥hi³/（黔東方言）など基本的に両唇音である。

附録

音節頭子音、韻、声調の語例を以下に示す。

A. 音節頭子音の語例

音節頭子音	語例	意味“漢語の対応語”	語例	意味“漢語の対応語”
p	pan ⁵	雪 “雪”	pou ⁴	手 “手”
ph	phuei ⁵	肺 “肺”	phu ⁵	(布団を)掛ける “盖(被)”
b	bu ⁵	雷 “雷”	bou ³	(ものを)焼く “烧”
m	mai ⁶	目 “眼睛”	mien ³	歯 “牙”
f	fu ⁴	尿 “尿”	fen ³	粉 “粉”
v	vun ²	黄色い “黄”	va ⁶	(字を)書く “写”
t	ta ⁴	たたく “打”	te ³	皮 “皮”
th	than ¹	鍋 “锅”	thiu ⁵	見る “看”
d	dou ³	長い “长”	duŋ ²	砂糖 “糖”
n	nan ³	短い “短”	na ¹	取る “拿”
s	sei ⁵	小さい “小”	san ¹	新しい “新”
l	lu ¹	大きい “大”	lan ¹	肝臓 “肝”
ts	tsou ⁵	足 “脚”	tsa ³	櫛 “梳子”
tsh	tshian ¹	澄んでいる “(水)清”	tshæ ³	(十七の)七 “(十)七”
c	ci ²	口 “嘴”	ca ¹	あぶり焼きする “烤”
ch	chan ³	血 “血”	cha ³	引っ張る “拔”
ɲ	ɲou ³	胃 “胃”	ɲan ¹	兄嫁 “嫂子”
ɕ	ɕou ¹	軽い “轻”	ɕa ³	女の子 “女儿, 妹妹”
j	jɔŋ ⁴	生む “生(子)”	jæ ²	八 “八”
k	kai ³	大便 “屎”	kai ²	肉 “肉”
kh	khɔ ¹	殻 “壳”	khu ⁵	ズボン “裤子”
ŋ	ŋei ³	重い “重”	ŋa ²	芽 “芽”
kw	kwə ¹	切る “割”	kwɛ ⁵	(服を)掛ける“挂(衣服)”
khw	khwei ¹	開く “开”	khwɛ ³	穴 “窟窿”
ʔ	ʔæ ¹	アヒル “鸭子”	ʔai ³	低い “低”

h	han ²	含む “含”	ha ²	エビ “虾”
pl	pli ¹	毛 “毛”	pli ³	頭 “头”
kl	kliən ²	腸 “肠”	klou ⁵	卵 “蛋”
khl	tian ⁵ khluə ⁵	森 “森林”		

B. 韻の語例

韻	語例	意味 “漢語の対応語”	語例	意味 “漢語の対応語”
i	bi ¹	知っている “知道”	ɣi ³	一 “一”
iu	tsiu ⁶	咀嚼する “嚼”	ciu ⁵	照らす “照”
iŋ	ciŋ ³	刺す “刺”	tsiŋ ²	門 “门”
ei	pei ⁶	舐める “舔”	kei ¹	鎌 “镰刀”
eŋ	beŋ ³	板 “木板”	meŋ ²	人 “人”
ɛ	tɛ ⁴	拭く “擦”	tɛ ³	皮 “皮”
eu	tseu ³	墓 “坟”	peu ³	斧 “斧头”
eŋ	seŋ ³	省 “省”	veŋ ³	安定している “稳”
æ	tæ ⁴	咬む “咬”	jæ ²	八 “八”
a	na ³	吞む “吞”	ba ¹	百 “百”
ai	tsai ³	掴む “抓”	kai ¹	鶏 “鸡”
au	mau ²	猫 “猫”	lau ³	竹 “竹”
an	lan ¹	肝臓 “肝”	san ³	ご飯 “饭”
aŋ	maŋ ⁵	聞く “听”	daŋ ⁵	ストール “凳子”
œ	tœ ⁴	豆 “豆子”	klœ ³	バッタ “蚱蜢”
œn	coen ²	虎 “老虎”	loen ⁴	ベッド “床”
ou	klou ³	道 “路”	dou ¹	答える “答”
oŋ	thoŋ ³	船 “船”	kloŋ ³	話す、言う “讲”
ɔ	cɔ ⁴	火が通っている “熟”	tsɔ ³	(体を) 洗う “洗”
ɔŋ	hɔŋ ¹	赤い “红”	loŋ ⁵	良い “好”
u	ku ¹	遠い “远”	nu ¹	蛇 “蛇”
uŋ	bun ²	花 “花”	duŋ ²	砂糖 “糖”
ə	khə ¹	喉が渴いている “渴”	thə ¹	拭く “擦”
ən	tən ⁶	話す “谈”	dən ¹	息子 “儿子”

y	khy ³	脱ぐ “脱”	ply ²	鼻水 “鼻涕”
yn	chyn ³	(手を) のばす“伸(手)”	dyn ⁵	叱る “骂”
i	si ³ (chaŋ ⁷)	市場 “市(场)”	si ¹ tsi ³	ライオン “狮子”
ie	cie ³	痒い “痒”	klic ³	熊 “熊”
ien	cien ¹	本当だ “真”	tsien ²	止まる “停止”
ia	kliā ³	黒い “黒”	lia ³	鉄 “鉄”
iau	piau ⁵	腕時計 “(手)表”	hiau ²	効き目 “(有)效”
iaŋ	diaŋ ²	住む “住”	siaŋ ⁵	姓 “姓”
iou	piou ²	浮く “浮”	tsiou ³	早い “早”
io	dio ¹	得る “得”	ɕio ¹	もみ “稻谷”
ioŋ	sioŋ ³	骨 “骨”	klioŋ ¹	龍 “龙”
uei	tuei ²	サツマイモ “红薯”	phuei ⁵	肺 “肺”
uan	suan ¹	(十三の) 三 “(十)三”	juan ²	尋 “庚”
uo	buo ³	行く “去”		
uə	buə ³	おなら “屁”	huə ³	飲む “喝”
uən	buən ²	盆 “盆”	muən ³	鬼 “鬼”

C. 声調の語例

最小対語（第7声調は語の一部）を示す。

声調番号	語例	意味 “漢語の対応語
1	ci ¹ [tɕi ⁴³³]	追いかける “追”
2	ci ² [tɕi ⁴⁵]	口 “嘴”
3	ci ³ [tɕi ¹³]	紙 “纸”
4	ci ⁴ [tɕi ⁴²]	～である (コンピュータ) “是”
5	ci ⁵ [tɕi ⁴⁴]	(値が) 高い “贵”
6	ci ⁶ [tɕi ²²]	あざ “痣”
7	ci ⁷ [tɕi ²¹] pla ¹	叔母 (父方の、父より若いおじの妻) “婶母”

(たぐち よしひさ・千葉大学文学部)

A Brief Sketch of Cao Kong Meng

Yoshihisa Taguchi

Summary:

This paper is a brief report of the field research on Cao Kong Meng conducted by the author. Cao Kong Meng is a Mienic language spoken in Gongcheng, Guangxi Province, China. In this paper, I describe the phonological system of Cao Kong Meng, and more importantly, indicate the geographical distribution of the language, along with that of the other varieties spoken in its vicinity. The paper also includes some vocabulary of Cao Kong Meng.